

年金だけでは定年退職後に不足するであろう生活費を十分補えるくらい株式投資・トレードで毎月着実に儲け続けるためには何をどう考えてどのように実行すればよいのだろうか。このような難しい問題の答え、あるいは、ヒントを見つけるためには「解像度」をできる限り高くして、かつ「体系的」に考えることが肝要である。問題を要因ごとに分解して考え「ブレイクダウン」、さらの個々の要因を掘り下げてさらに深く考える(ドリルダウン)と問

実学の株式投資技術の必要性(25)

四つの柱・要因にブレイクダウンする。①株式相場の「原理原則」②株式相場の「見方」③株式相場の「やり方」④株式相場の見方とやり方の「定石」である。そして、ここから各要因をドリルダウンして解像度をさらに高める。①株式相場の原理原則(株価はどのような原理で決まり、なぜどのように変動するのか)という問いを立て、その明確な解答を理解しておく。それは「株価P=予想EPS×予想PER」という式で明快に表現できる。つまり、株価Pというものは、予想EPS(予想一株利益)と予想PER(投資家の期待・楽観度)の掛け算で決まる。ただ、予想PERはさ

を上げたり下げたりするたため、株価も変動し続け、常に株式相場を押し上げたり、押し下げたりする力として働いている。次は②株式相場の見方(相場観測法・銘柄選択法)である。株価の動きは過去のパターンと似た動きをすることが多い。過去から現在までの幾何の銘柄の株価の動きを演繹法的(原理原則に照らし)、かつ、帰納法的(観察から仮説を立てその仮説を実証する)に観察すると自分独自の気付きがある。先人の知見に自分独自の気付きも加えて、自分独自の株価相場の見方のモデルを作り出し、それを相場という荒海を安全に航海するための不動の「羅針盤・灯台」とするのである。筆者の場合、それは「株価サイクル」という相場観測モデルである。

解像度を高め

体系的に考える



根幹教授 大学部教授 矢三 徳大 知淑 愛知 ビジネス

題の本質に気づきやすい。まず、株式相場「哲学」(相場の考え方)として、株式投資・トレード技術を

さまざまな要因で常に揺らぎ続けるのでそれに引っぱり張られて株価も常に変動する。数カ月単位で株価の基調的方向性を決定するのは予想EPSの変化だが、日々株価を変動させるのはその時々投資家の期待・楽観度を表す予想PERの変化である。予想PERは森羅万象あらゆるものの変化の影響を受ける。特に経済大動である米国の景気変動や株式相場の変動の影響を強く受け、日替わりで予想PER(投資家の期待・楽観度)を

みつや・みかね 専門はコーポレートファイナンス・証券投資論・株式投資・トレード技術。元ドイツ銀行名古屋支店支配人。英国リーズ大学経営学大学院・MBA(Finance)。1995年生まれ。